

信夫冬菜(信夫菜)

1, 解説

本種は、中通り北部を中心に栽培が見られるカブナ (*B.rapa*)の仲間である。

福島県農業誌によると、福島市渡利地区から岡部地区にかけて秋冬の桑園間作として栽培されてきたものを、昭和初期に当時の郡農会が「信夫菜」として命名したという。

栽培や用途は小松菜に準じるが、一部春先に茎立ち菜として利用されるケースもある。

草姿、外観は小松菜、葉形はへら形で葉縁に細かい切れ込み、鋸歯が見られる。葉柄は小松菜に比べ細いが、やや厚みがある。

2, 写真



子葉



本葉



収穫期の株 (全体)



株を分解したもの



株を分解したもの

3, 遺伝資源の栽培および保存状況

- ・主に自家用として中通り北部、中部で広く栽培されている。
- ・種子は福島市の（有）今川屋種苗店で販売されている。